

「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例（中学校）

【蓮田市教育委員会】

1 本校では、「埼玉県学習状況調査」の「結果」及び「分析支援プログラム」をもとに、職員の共通理解を図り、当該学年及び他の学年の学力向上に取り組んでいる。以下、全体の取組を述べ、効果的と考えられる事例を挙げる。

2 分析支援プログラムを活用した取組

(1) 各教科（国・社・数・理・英）の取組

ア 校内研修で分析支援プログラムの共通理解を図る。

イ 各教科の課題に対する対策を立てる。

ウ 対策を実践する。

○ 国語

「書く能力」の向上を目指し、①過去問等の問題演習②ノート指導の充実
③200～300字の作文練習④ワークシートによる指導に取り組む。

○ 社会

「資料の読み取り能力」の向上を目指し、①視覚教材を多く使用し、わかりやすい授業に取り組む。②地図帳・年表の利用機会を増やしたり、ワークを使った繰り返し学習をさせる。

○ 数学

「計算力と図形問題への対応力」の向上を目指し、①小テストを毎時間取り入れ、理解度を高める。②TT授業による充実だけでなく、個別学習、補習を行う。
（東部教育事務所のワークプリント、ワークシートを活用した。）

○ 理科

「基礎的・基本的な知識の定着と問題への対応力」の向上を目指して、①TT授業による充実だけでなく、実験の回数を増やしたり、視聴覚教材を多く使用するなどして理解度を上げる工夫をする。②小テストを多く行い理解度を上げる。③定期テスト前や夏休みの補習を行う。

○ 英語

「書くことや書こうとする意欲を持たせること」「基礎的・基本的な知識の定着」の向上を目指して、①ALTを生かして表現する機会を多くする。②反復練習の機会を多くする。③定期テスト前や夏休みの補習を行う。④定期的な単語テストを行い学習意欲を高める。

(2) 分析支援プログラムの課題解決を目指した全校での取組

- ・定期テスト前5日間で、朝の5教科小テストに取り組ませ、学習時間の確保や学習の仕方の支援を行う。
- ・朝の15分間読書に取り組ませ、読む力や集中力を高める指導する。
- ・全生徒が、毎日2ページを目標に家庭学習ノートに取り組み、家庭学習の習慣化を図る。
- ・定期テスト前3日間及び夏季休業中の始めの1週間で補習を行い、個に応じた支援をする。
- ・夏季休業中に補習を行い、基礎学力の定着を図る。
- ・毎日の生活記録ノート指導で、基本的な生活習慣の確立と学習の習慣化を図る。
- ・毎日の生活記録ノートの生活作文指導で、書く活動（作文指導）の充実を図る。
- ・県（東部教育事務所）HP「家庭学習をしよう」を本校HPにリンクして、家庭学習での活用を促し、家庭学習の充実を図る。

(3) 質問紙の分析を生かした取組

- ・「あいさつ」「身だしなみ」「交通安全」をねらいとしたあいさつ運動、校門指導を実施する。
- ・ノーチャイムによる学校生活を実践する。
- ・体育授業で補強運動に取り組む。
- ・部活動体力づくりメニューを実践する。

3 効果的事例

①各教科の小テスト、②毎日 2 ページを目標とした家庭学習ノートを取組、③補習が効果的であった。

① 小テストの例 (英語)

3年 英語科 朝自習確認テスト 組番名前 _____

1 次の語の意味、過去形、過去分詞形を書きなさい。

(例)	write	書く	wrote	written
1	go			
2	make			
3	come			
4	put			
5	play			
6	study			

③ 夏休みの補習

補習のプリント

年表で 開始 以降れをつづらせろ

年	日本のできごと	年	世界のできごと
		600 古事記以上	1 _____
		200 万葉集	2 _____
		50 万葉集	3 _____
		紀元前	4 _____
		紀元前	5 _____
		紀元前	6 _____
		紀元前	7 _____
		紀元前	8 _____
		紀元前	9 _____
		紀元前	10 _____
		前 1000	11 _____

②家庭学習ノートの例

- ・この例は、理科と数学のノートである。
- ・本校は、数学ともう 1 教科、合わせて 2 ページを原則として取り組んでいる。

